

2019/08/22 道央 (江別)

生徒の仕事ぶり 企業が関心

新篠津高等養護 採用担当者が見学



コーヒー豆を入れる袋の作り方を採用担当者に説明する同校の生徒

【新篠津】新篠津高等養護学校（日向正明校長）で21日、障害者雇用を検討する企業向けの学校見学会が行われた。市内のほか、札幌や岩見沢の企業11社の採用担当者ら28人が作業学習の様子を見て回った。

障害者雇用の促進を図ろうと道が主催。担当者は、生徒がコーヒー豆を入れる袋や茶わんを製作する作業実習の様子などを見学した。学校内で生徒や教職員が使うおしぼりの洗濯作業をしていたクリーニング科

3年の男子生徒は「衛生面が大切なので、分らないことがあればすぐに先生に質問するようにしています」などと説明した。来年度に障害者2人程度の雇用を検討しているという丸大食品北海道工場（岩見沢）の山口和久係長は「積極的に仕事に取り組んでくれるような生徒が多い印象を受けた。採用できれば会社としてもしっかりフォローしたい」と話す。日向校長は「障害がある人と、ない人が一緒に働くことへの理解を深めてもらえれば」と期待する。同校では、知的障害のある生徒134人が、就職を目指して木工科やクリーニング科など7科で学んでおり、卒業生の約4割が一般企業に就職している。（河田俊樹）



▷ニュー
江別支局

ebetsu
報道セン

sapporc

▷購読に
大野 幌
野幌南部
江別西部
江別東部
江別中央
新篠津

©北海道新聞社